

令和6年度 学びの丘 上新田学園 学校評価書

項	No.	評価指標	学校としての取組	保護者(小)	保護者(中)	教職員	平均	学校運営協議会	学校運営協議会委員の意見
確かな学力の向上	1	学校は、上新田スタンダード(返事・姿勢・学びに向かう姿など)を定着させ、分かりやすい授業を実施している。	○ 全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、中学部3年生においては、全国及び県平均を大きく上回る結果が見られた。特に中学部に入学してからの成績が上昇傾向にある。みやぎ小中学校学習状況調査においても、小・中学部ともに全国及び県平均を大きく上回る結果を残している。 ○ 通級指導や個別指導、習熟度別少人数指導を実施し、一人ひとりにきめ細やかな指導ができています。 ○ 今年度もICT活用推進を校内研修計画に位置付け、教員のICT活動指導力の向上を図ることができた。	3.54	3.46	3.50	3.51	3.53	○ 先生方は、ICTを活用したすばらしい授業を積極的に行っている。発達段階に応じて工夫されていた。今後もICTの活用を継続しながら、一人ひとりを見届けることができる授業を行っていただきたい。
	2	教職員は、一人ひとりの理解度に応じた、きめ細かい見届けの指導を行っている。		3.39	3.44	3.38			
	3	教職員は、ICT(パソコンやタブレット、大型テレビなど)を活用して、様々な学びに対応する授業を実施している。		3.63	3.71	3.58			
小中一貫教育の推進	4	学校は、小中一貫教育校のよさを生かして、一部教科担任制(中学部教員が小学部にて授業を行うなど)の授業を工夫している。	○ 小中一貫教育の強みを生かし、中学部の教員が多教科にわたり専門性の高い乗り入れ授業を実施している。 ○ 中学部では、3年生が定期テストを初めて受ける1年生に授業の受け方や家庭学習の仕方についてアドバイスを行う座談会や、1・2年生対象の教え合い学習を行った。 ○ 児童生徒会を中心に、読み聞かせや収穫感謝祭など様々な行事で小中の交流を深めている。上学年が下学年のお世話をするなど思いやりや責任感、公共心や道徳心が向上している。	3.66	3.69	3.81	3.62	3.83	○ 小中一貫の取組や専門的な指導(中学部教員が小学部にて行う授業)が学力向上につながっていると考えられる。来校のたび、すばらしい美術作品や歌声に触れることができ、大変感心させられている。
	5	学校は、小中一貫教育校のよさを生かして、教え合いや学び合い(読み聞かせ・児童生徒会)を行っている。		3.71	3.73	3.77			
	6	子どもたちは、自分より上の学年の児童生徒にあこがれをもっている。		3.41	3.25	3.58			
特別支援教育生徒指導	7	学校は、いじめ・不登校などの諸問題の未然防止や早期発見を行っている。	○ 児童生徒の家庭状況や気になることなどについて、職員間の共通理解を図った。しかし、保護者においては評価が低いため今後もさらに家庭との連携を深め、学校に対する信頼を高めていきたい。 ○ 今年度は、本校主催の新富町PTA連絡協議会でヴィアマテラス宮崎の齋藤タ真選手の講演会を実施し、「みんな違ってみんないい」というテーマで地域や保護者に多様性への啓発を行った。	3.21	3.25	3.65	3.42	3.40	○ 全体的に見ると数値が低い。今後もさらに家庭と連携を図りながら、児童生徒の理解に努めていただきたい。また、スクールカウンセラーの活用を児童生徒だけでなく、保護者も相談できるような窓口にしていただきたいと思う。
	8	学校は、個に応じた指導を組織的に行っている。(個別の教育支援計画の作成・指導体制の確立・就学指導委員会の実施)		3.45	3.48	3.50			
	9	学校は、地域とともに多様性を理解し、受容するための講演・研修を企画し行っている。		3.49	3.56	3.23			
学校安全の徹底	10	教職員は、校内施設の安全点検を行い、危険箇所の把握を行っている。	○ 職員による毎月1日の安全点検と学期末の点検巡回を徹底している。 ○ 朝登校時の見守り活動や不審者情報の提供など、地域の方々の協力をいただいている。 ○ 不審者情報や危険箇所の連絡、ゲリラ豪雨や台風時の学校の対応など、「sigfy」で緊急連絡体制の確立を進めることができた。	3.49	3.60	3.69	3.70	3.73	○ 「sigfy」の活用を継続して行い、緊急連絡体制をさらに構築していただきたい。登下校時の見守りを引き続き行いながら、児童生徒の安全に努めていきたい。
	11	学校は、地域見守り隊と協力して、交通安全や不審者対策を行っている。		3.74	3.77	3.50			
	12	学校は、保護者連絡アプリ「sigfy」を使って、緊急連絡体制を構築し活用している。		3.80	3.81	3.92			
読書のまちしんとみの推進	13	学校は、校内に読書環境を整備し、本好きな児童生徒を育成している。	○ 図書支援員が毎日図書館に常駐しており、館内の環境整備や新刊の紹介、新聞や情報誌の掲示や本の貸出の管理などに尽力している。 ○ 朝の読み聞かせは、毎月ボランティア団体赤ずきんさんや読み聞かせ委員の方々にご尽力いただいている。 ○ 昼休みや放課後、授業においても積極的に図書室を利用する児童生徒が増えている。	3.61	3.56	3.54	3.67	3.76	○ 読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせは大変すばらしい取組である。中学部の生徒が小学部の児童に読み聞かせをするなど小中一貫の取組が生かされ本好きな児童生徒を育成していると思う。
	14	学校は、「読み聞かせボランティア」による読み聞かせを積極的・計画的に実施し、児童生徒が本に親しめる環境をつくっている。		3.73	3.69	3.77			
	15	学校は、学校図書館を整備し、児童生徒が本を読み借りできる環境を整備している。		3.67	3.71	3.77			
子ども	16	子どもは、楽しく学校に通っている。	○ 小中一貫校ならではの活動の中で、学校の楽しさや異学年で協力し合う楽しさなどを味わうことができている。この環境の中、さらに思いやりや公共心も育まれている。 ○ あいさつについては、放送や一斉下校指導の際に賞賛の場を多く設け、今後も「進んであいさつ」ができる児童生徒を育成していきたい。	3.63	3.52	3.62	3.49	3.40	○ あいさつの声の大小よりもあいさつをきちんとしてくれる上新田の子どもたちを褒めたいと思う。いつも子どもたちに元気をもたらしている。地域でも子どもたちに進んで声をかけながら見守っていきたい。
	17	子どもは、思いやりや心やルールを守る態度、協調性などが育っている。		3.54	3.52	3.54			
	18	子どもは、あいさつや時間を守るなど基本的な生活習慣が身に付いている。		3.54	3.44	3.08			
保護者	19	学校や学級、「sigfy」から配信される文書などを読むようにしている。	○ 「sigfy」の活用も3年目となり、地域や保護者の方々との連絡手段として理解を得ることができている。また、学校だより「座論梅」や学級通信、行事等の案内文書も紙媒体を廃止し、一本化を図りたい。 ○ 地域や保護者の方々が、学級担任だけでなく関係職員にも気兼ねなく相談できる温かい雰囲気を醸成していきたい。	3.70	3.65		3.55		
	20	子どもの様子について、気になるときには関係教職員に知らせている。		3.39	3.38				
	21	学校の様子について子どもと話をしている。		3.66	3.54				

(その他) ※ 茶摘みや梅ちぎり体験、習字指導や湯の宮棒踊り、環境整備など地域の方々の協力をいただきながら、地域に根ざした教育活動を展開することができた。

